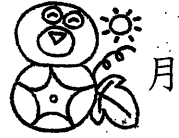
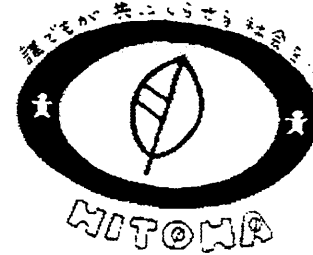


2022年(R4年)



No. 364

# ひとはつうしん



社会福祉法人 ひとは福社会  
〒739-1203  
広島県安芸高田市向原町長田1857番地  
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムア°ジプト°) http://hitoha-fukushi.com (メルアド°) honbu@hitoha-fukushi.com

「そろそろ私も体力の限界じゃ」。65歳を超える職員さんが大勢いるひとはでは本人発の限界説がポツポツ囁かれます。その顔は冗談半分、申し訳な半分です。ひとはの仲間として数年の方もおれば何十年も関わり続けておられる方も

とはいえ、高齢者?の目の付け所は若い職員さんとは少し違います。勢いと機動力のある若い職員は素早く動き回ります。

他方、高齢者もとい人生経験豊富な職員さんたちは周りを見渡しながら一人で過

ぎしているきららの横にそっと佇みます。様子をうかがって話が盛り上がる時もあるれば、

静かに寄り添うときも。「あなたは一人じゃないよ」と言わんばかりの何とも言えな

い緩やかな雰囲気醸し出しています。足腰も、視力も聴力も若い時から限りない

成長をしてきた末に身に着けられた寄り添い力なのかもしれません。

もう世界した祖母も祖父も常に私の味方でいてくれました。「あなた(みんな)の

ために」や「社会はこうよ」といった怪しい常識を押し付けられたことは一度も

ありませんでした。

きららや子ども達、若い職員を励まし寄り添い伴走してくれるベテラン職員さん

の存在は、ひとはの宝です。

(事務局 寺尾 真)

## 後援会員よりメッセージをいただきました

私は、20年ぶりに安芸高田所での勤務となります。その20年前に、当所でのイベントで寺尾さんの講演を聴かせていただき、その時の内容が、私がこの行政で仕事をするうえで、ずっと石楚になっております。それくらい私に深く刻まれた講演でした。

届いた「ひとはつうしん 6月号」を出勤して読みました。

渡里-真さんの「何度生まれ変わっても今の自分」というコメントに、少し落ち込んでいた

自分へ勇気をいただけました。

また、重廣伸明さんのエピソードに改めて「社会は人が躍動するからこそ、社会

なんだ」ということを痛感しました。

ありがとうございます。

今回は所長として安芸高田へ赴任しています。

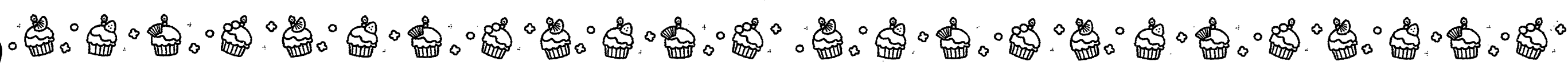
業務で迷うこともあり、日々苦笑いの連続ですが「まあ、苦笑いも強さの一部分」と

思っています。

そんな中で、今日「ひとはつうしん」から足跡をしっかりと刻むことを教えてもらいました。

## お知らせ

1985年9月3日、ひとはが開所しました。翌年より、ひとはつうしんの発行を始め、運営理念を軸に、ひとはの移り変わりや活動の様子を伝え続けています。編集会議を行う中で「これはカラーで載せたいね」「写真があるともっと伝わるよね」の思いを形にしたいと、写真を使ったつうしんを発行するための編集会議を行っています。デザイナーの田中賢さんに入っていたいただき、開所月にちなんで毎年9月号を特別版でお届けします。



# 語り継ぎたいこと

— ニッポンえ帖 改訂版 —

「なるほどねえ」、まずは思いに共感してから

言語での表現が不得意な人たちは、いろんな表現方法を駆使して自分の思いを発信しています。それゆえ、行動にはすべて意味があるといわれるのでしよう。

人それぞれに表現方法があるということに配慮しながら、本人が伝えたいこととは何かと、思いをめぐらせてみましょう。

「なるほどねえ」あなたが伝えたかったことは、そういうことなのかと共感できたと、自分自身にも「ゆたかさ」が広がっていきます。

「なるほどねえ」、あなたの問題は自分の問題でもあるんじゃないかな

(背景の絵：石田孝弘)

## 「でも来るんよ？」

社会人1年目で朝のバス送迎の添乗をしていた時です。急な腹痛に襲われました。その後病院へ行き、1日お休みをいただくことに。後日、西原さんから「宮地さんしんどい？」橋本さんから「宮地くんは体調不良なんよ！疲れたんかな？でも来るんよ！一緒に頑張る。て言ってるんよ」と声をかけられました。自分は支援をする立場だと思いましたが、励まされ、自分の方が支えられていると感じました。  
(ひとは作業所 宮地慎哉)

## 「私の〇〇〇〇」

農業班に中国生まれの中村国慶さんがいます。明るく人懐っこくてみんなに好かれています。中村さんは4年位前から「私のたかおき」と言ってくるようになりました。それが高じてみんなと歌を歌うときに歌詞が分からなくなると音程に合わせて「私のたかおき〜♪」と歌います。愛らしいなと思っていると、相矛盾する「じい！」「たかおきわるいよ」「たかおき冷たいよ！」とも。私も周りの反応を見て楽しんでいるのか、はたまた慣用語として使っているのか？私は周囲を明るくして、自分の居場所を作っている言動だと思いうようにしています。  
(ひとは工房 高沖勇雄)

## 「高学年になると」

くらむぼんの日課は、学校から帰ったら活動に入るまでに宿題を済ませて、それぞれの好きな遊びをして過ごします。活動時間になり、片付けをして正座して待っている子どもたちの中、下級生たちがふざけ合いスタッフが注意してもなかなかやめない時、高学年の愛来さんが「静かにせん」と一言注意したり、間に入って止めたりしてくれました。以前は自分のことで精いっぱい、思うようにいかないことがあるとすぐに怒っていましたが、高学年になり少し周囲の気配りができるようになってきた姿を見て嬉しく感じました。  
(くらむぼん 小田陽子)

ひ

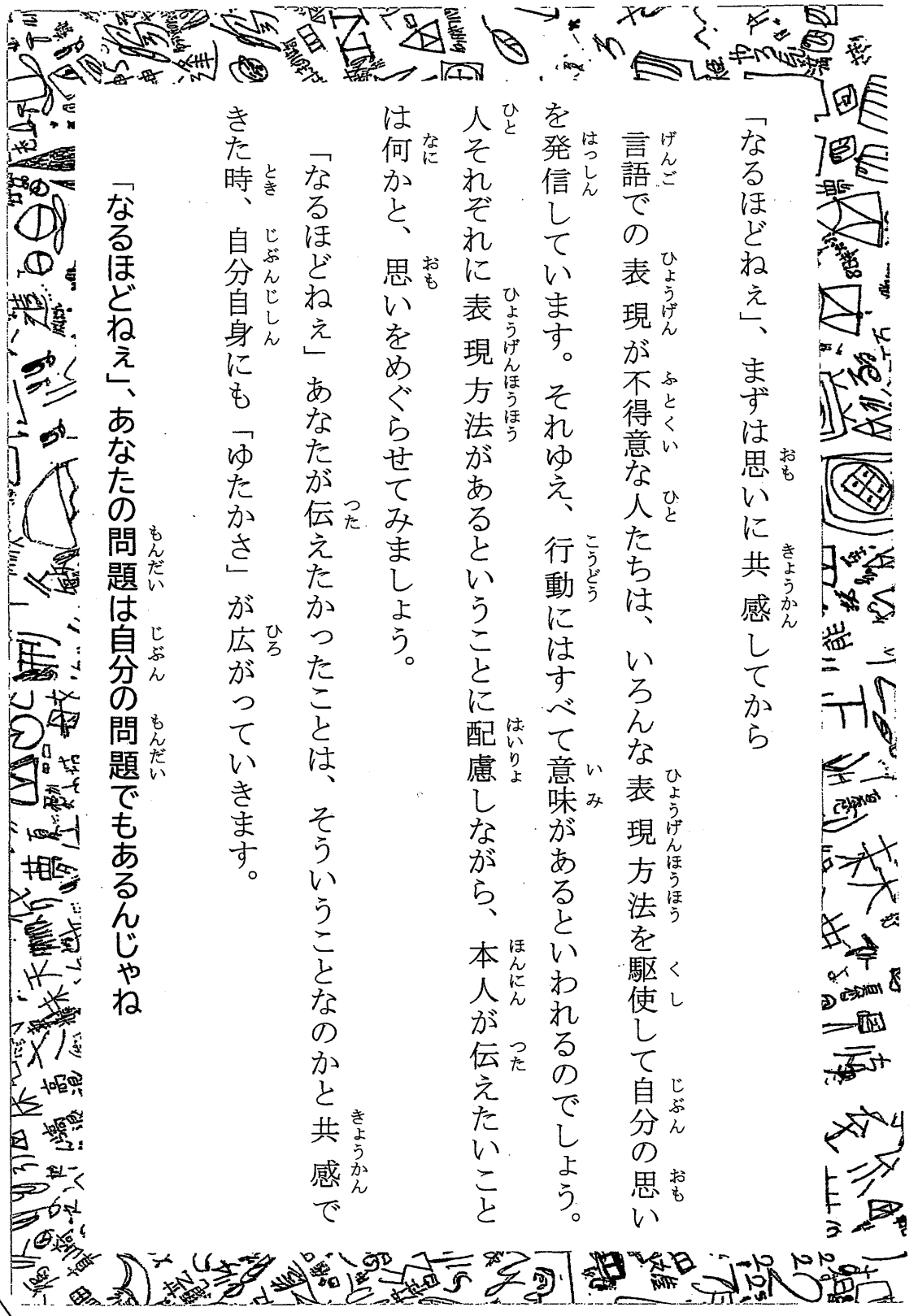
と

は

の

日

々



3度目の夏

編集後記

胃ガンの手術から3度目の夏。文尚さんは40分の早朝の散歩は欠かさない。その後バス停で子どもたちの見送り。夕方は畑の中から「おつかれさん」とスタッフに声をかけている。私はひびが痛く途中急流の散歩。ヨタヨタの夏。(青尾順子)